

## 第10回青森ねぶた祭検討特別委員会会議概要

日 時 平成18年6月22日(木) 13時30分～15時40分

場 所 ラ・プラス青い森 4F ラ・メール

出席委員 蝦名委員長、佐藤副委員長、武田委員、對馬委員、若井委員、柳谷委員、  
奈良委員、澤田委員、

オブザーバー ねぶた運行団体協議会榎引事務局長

事務局 市澤田部長、平田観光課長、会議所高木地域振興部次長、協会櫻田専務理事

欠席委員 勝又委員、千葉委員、太田委員、采田委員

### ○委員長挨拶

- ・昨年この委員会で協議し、警察へ依頼した30分の時間繰り下げ運行が、20分なら大丈夫そうだという中間報告を受けている。

### ○前回議事概要の確認について

- 事務局より前回議事概要を説明し、内容確認をした。

### ○会議概要

#### 1. ワーキンググループの報告について

ワーキングで協議された「青森ねぶた祭保存会規約改正案」「青森ねぶた祭実行委員会会則改正案」について對馬座長と事務局より説明の後、内容について審議し、別紙の通りとなった。

保存会規約について

- ・第4条の別紙(案)はあくまでも一例。
- ・名人位については検討委員会で協議してもらおう。
- ・保存会を今年度中に取りまとめ次年度から発足できないか。
- ・来年に間に合うものは順次立ち上げていきたい。

実行委員会について

- ・「奨励委員会」を、「伝承育成委員会」と「審査委員会」に分け、「伝承育成委員会」の事務局を青森市に担って欲しい。
- ・「伝承育成委員会」の事務局については主催三団体で協議する。
- ・表彰式で受賞者にコメントを求めたり、マスコミに取り上げてもらったりもっと華々しく行って欲しい。

#### 2. 今後のタイムスケジュールについて

- 12月までにはまとめた。

### 3. 奨励機能について

事務局より現状の奨励について説明の後、委員から意見を頂戴した。

- ・ 年功加算点はなぜ出てきたのか。
- ・ はっきりした記録はないが、当時は新規団体も多く、昔から頑張っている団体への貢献度を認めたものと思われる。
- ・ 審査と別に功労賞として別に定めていれば、功労加算点は必要ないのではないか。
- ・ 運行団体側としては運行・跳人の次年度への持ち越しは良く思っていない。
- ・ 6、7日の運行を引き締めるためにはあった方が良い。
- ・ 総合点の点数配分によって、ねぶた本体の順位と総合の順位が違うことがある（例：本体2、3位が大賞など）ので、今の点数配分で良いのか。
- ・ ねぶたは山車だけでやっている訳ではない。最優秀制作者賞が海上運行しているし、ねぶた祭がどうあるべきかを考えると現状で良い。
- ・ 総合賞である大賞が名人位に反映される傾向なので困る。最優秀制作者賞のステータスが上がり、認知されれば問題は解決する。配分は今のままで良い。
- ・ 運行団体としては運行跳人の配分を下げてもらおうよう依頼しているが、現在に至る。
- ・ 一昨年奨励委員会でワーキングを設け協議した結果、現在の配分のままと言うことになった。
- ・ 運行団体側は粗暴ハネトの整理で手がいっぱい。自分たちのハネトをきれいに見せる余裕はない。
- ・ 毎年運行の整理をせずだらだらしている団体があり、後ろに迷惑をかけ時間を遅らせる原因になっている。運行の配分を下げると危険。
- ・ 点数に反映されなくても、実行委員会からの注意で済まないのか。
- ・ 哀愁とは青森ねぶたにあてはまるのか。
- ・ 評価のポイントを一つ一つ採点するのではなく、総合的に評価する。
- ・ 伝統制とはコマーシャルが行き過ぎていないかということ。
- ・ 構図の伝統制もある。
- ・ 審査席を設けていると審査席の方ばかりにねぶたが行くので、向かい側の席から苦情がある。
- ・ 審査席が分かった方が、ねぶたは1回転だけすると決めているので運行がスムーズになる。
- ・ 昔と同じ題材や構図で制作している場合があるが、審査委員は把握しているのか。
- ・ 今過去のデータを審査員にお渡しする予定。

奨励部分については、ワーキングを設けて協議することとした。ワーキングメンバーについては委員長・事務局にて協議。

#### ○次回委員会開催について

日時 平成18年7月19日（水） 午後1時30分～午後3時30分

※ ワーキング開催後

以上